

資料 3



庁内における生成 A I の活用状況

企画振興部DX推進課

庁内における生成AIの活用状況



汎用的な生成AIサービスは、約半数の職員が利用中。

今後も活用事例の共有を通して、より多くの職員の日常的な利用を促進！

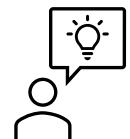
- 今年1月に、**全ての職員のパソコンで対話型の生成AIサービス（Microsoft Copilot）を日常的に利用できる環境を整備**するとともに、利用上の遵守事項等を示す**ガイドラインを策定**し、本格的に利用を開始しました。
- 引き続き、職員向けに利用上の留意事項や効果的な利用方法について学ぶ研修を実施するなど、**リスクの理解と積極的な利用の両面を意識**しながら、利用を進めています。
- 文章の作成・要約、情報の整理やアイディア出し、表計算ソフト等の関数・コード作成などの業務の補助に利用**されており、例えば、議事録作成に要する時間が約4割削減されたという事例も寄せられています。

※ Microsoft Copilotを1度でも利用したことのある職員の割合：48.3%（10月末現在）

生成AIの利用事例



文章の作成・要約



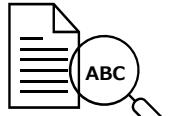
情報の整理
・アイディア出し



関数・コード等の
作成



データ分析



スキャンした紙データの
文字認識

庁内における生成A Iの更なる活用



複雑な業務であっても大幅に効率化できるよう、生成A I × R A G(※)の活用に挑戦中！

- 全庁的な業務改革（B P R）の一環として、生成A Iとの対話を通して、庁内の専門性の高いデータを参照しながらより高度かつ正確な情報を引き出せるよう、R A Gを組み合わせた活用方策について研究を進めています。

※ R A G（ラグ）：Retrieval-Augmented Generation（検索拡張生成）。

生成A Iが利用者の質問に対して、あらかじめ登録した情報源（ナレッジ）から関係情報を検索し、それをもとに自然な文書で回答を生成する技術。

活用が期待される業務

- ✓ 複雑な制度運用に係る業務
- ✓ 一定の専門知識を要する共通業務

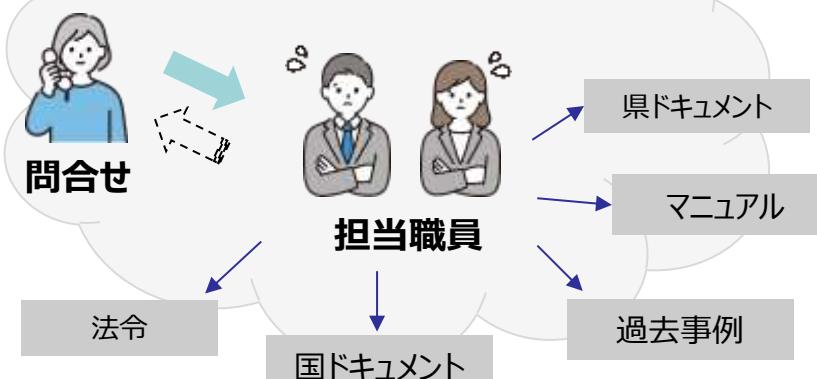
例：福祉関係手当の支給に係る業務

例：財務会計制度に係る業務

短期的な実証では、
支給要件の確認に係る
時間が大幅に削減

現状

保存形態がバラバラで整理されていない膨大な資料（紙含む）を人の力で確認する必要があり、多くの時間が必要。（1件に半日かかるケースも）



目指す姿（イメージ）

あらかじめデータ化された膨大な資料をR A G機能を有する生成A Iで参照することで、必要な情報を迅速かつ正確に引き出すことができ、大幅に時間を削減。

